

ダイキン工業株式会社の支援による知床世界自然遺産地域保全事業

2019 年度 活動報告書

1. 多様性に富むしれとこの森を復元する事業

1-1. 100 平方メートル運動の森・トラストおよびその関連事業

「しれとこ 100 平方メートル運動」(斜里町主催)では、開拓跡地を買い取り、ここにかつてあった森を復元する活動を行っています。1977 年に始まったこの取り組みは、多くの方々からの支援を受け開拓跡地の買い取りを完了、1997 年からはその土地(以下、100 平方メートル運動地という)で本格的な森づくりを進めています。

本事業では、第 1 期支援期間(2011~2015 年)に実施した 100 平方メートル運動地内を流れる岩尾別川とその流域での自然再生に引き続き、対象を運動地全域に広げ森の復元を進めていきます。

第 2 期支援期間(2016~2024 年)では、広葉樹や針葉樹の育成と植樹、森の復元を進める上で障壁となっているエゾシカ対策として過去に設置した防鹿柵や樹皮保護ネットの補修作業などを行います。その他、100 平方メートル運動地約 860 ヘクタールの約 25 パーセントを占めるササ地や造林地の森林化に向けた作業を行い、開拓以前の森の復元に向けた歩みを進めます。

1-1-1. 針広混交林の復元

春から秋にかけて苗木の育成や植え付け、シカから木々を守る防鹿柵の補修などを行いました。7 月には昨年度に引き続き重機を用いたササ地の掻き起こし作業を行いました。これはササに覆われた場所ではなかなか他の植物が育つことができないため、ササを掻き起こし勢力を弱めることで新たな木々の更新を促進させることを目的とした作業です。3 年目となる今年度は知床横断道路沿いに広がるササ地約 0.5 ヘクタールの掻き起こしを行いました。最初に着手した 2017 年度の作業地には、すでにヤナギやシラカンバなど広葉樹の小さな苗木が育ち始めています(写真 1-1~4)。

運動地内を流れる岩尾別川では、かつていたサクラマスなどの復元など川の生態系復元に向けた取り組みも行っています。今年度は知床半島におけるアメリカミンク(外来種)の分布状況の把握を目的とした調査を行いました(北海道大学協力)。ミンクは主に水辺を中心に生活することから、川の水に含まれる DNA を分析した結果、調査した 40 数河川の内 2 河川からミンクの DNA が検出されました。この 2 河川は過去

にミンクが目撃された情報記録があり、それが裏付けられるとともに現在でもミンクが生息していることが確認されました（写真 1-5）。

本事業は 2021 年に第 1 期支援開始から数え 10 年目を迎えます。その節目に向け、これまでの活動の成果を森林の成長量や CO₂ 削減量などで測るためにドローンで撮影した空撮画像を用いて科学的な知見に基づき解析する取り組みに着手しました。この冬はその準備として、協力いただく横浜国立大学森章研究室とダイキン工業との打ち合わせの場を設け、今後のスケジュールなどを確認しました。予定では 2020 年度に空撮及び解析を行い、2021 年度の公表を目指す段取りとなっています（写真 1-6）。



写真 1-1. 中型苗の移植 (2019年5月22日).



写真 1-2. 補修後の防鹿柵 (2018年5月27日).



写真 1-3. 重機を用いたササ地掻き起こし (2019年7月16日).



写真 1-4. 過去の掻き起こし地に生育するバッコヤナギの稚樹 (2019年8月22日).



写真 1-5. DNA分析用の水を採取した川の様子 (2018年9月13日). *採取は2018年実施



写真 1-6. 横浜で開催した打ち合わせの様子 (2020年2月18日).

1-1-2. ダイキン工業社員ボランティアの受け入れ

9月19日（木）～22日（日）の日程で、16回目となるダイキン工業知床ボランティアを開催しました。参加者11名の皆さんにお越しいただき、トドマツの苗木の移植作業や防鹿柵の補修作業などを行いました。また、2月には17回目のボランティアを開催しました。冬の開催は今回が2度目です。荒天のため1日短い2泊3日と日程となりましたが、参加者8名の皆さんには厳冬の自然の中、アカエゾマツ造林地で伐採作業のお手伝いをさせていただきました（写真1-7～10）。



写真 1-7. トドマツ苗の移植（2019年9月21日）.



写真 1-8. 防鹿柵の補修（2019年9月20日）.



写真 1-9. アカエゾマツ造林地での伐採作業（2020年2月2日）.



写真 1-10. 作業後の散策の様子（2020年2月2日）.

2. 世界遺産の価値を守り、伝える事業

2-1. 次世代へ知床の森をつなぐ活動

本事業では、世界自然遺産知床の魅力や価値を次世代に伝えること、更には未来の知床の自然保全分野で必要とされる人材を育てることを目的に、地元の子供たちが参加する自然学習活動を支援しています。

また、地元斜里町および近隣の小、中、高等学校への出張授業や、現地実習等の受け入れを積極的に行い、「しれとこ 100 平方メートル運動」の理解と普及に努めています。また、「しれとこ 100 平方メートル運動」の活動や精神を広く一般のビジターに知っていたくため、知床自然センターで森づくりをトピックとしたレクチャーを実施しています。

2-1-1. 次世代を担う子供たちを対象とした環境教育活動への支援活動

斜里町立知床博物館では地元の子供たちを対象に「知床博物館キッズ」という事業を毎年月 1 回のペースで実施しています。6 月は知床の川で観察会が行われました。また、斜里町や羅臼町の小学校では毎年総合学習の時間を用いて知床の自然を学ぶ授業があります。今年度は斜里町立朝日小学校 6 年生の授業のひとつで川の観察会が実施されました。これらの観察会では、2017 年度にダイキン工業の寄付により購入したウェダーが大活躍しました。子供たちとスタッフの大人たちが一緒に川の中に入り、生き物たちを間近で観察することができるため毎回好評を得ています（写真 2-1~2）。

2015 年から始めた羅臼町の知床キッズと斜里町ウトロの知床自然愛護少年団の交流事業は、今年度も 6 月に羅臼町の沿岸で海岸清掃を、7 月にはウトロのチャシコツ崎で浅瀬の生き物学習を実施しました。どちらの事業も例年に比べて当日の参加者が少なく、寄付金からの支出はありませんでした。

かつてあった知床の森や開拓の歴史、現在行われている森づくりについて広く一般の方に伝えるための絵本製作プロジェクトを立ち上げました。どのような絵本を作り上げるか、絵本作家のあかしのぶこさん（斜里町在住）と何度も打合せを重ね、ラフ案を作成しました。この絵本は本事業が始まってから 10 年目となる 2021 年度の完成を目指しており、この絵本がたくさんの人たちの手元に届き、知床の森づくりの普及活動に役立つことを期待しています。



写真 2-1. 知床博物館キッズ「川の観察会・ギョギョ！斜里川の魚たち」の様子。



写真 2-2. 斜里町立朝日小学校 6 年生の総合学習の時間。

知床の自然と 100 平方メートル運動の取り組みを伝えるため、地元の学校を中心に運動地での体験学習の引率などを行いました。

7 月には斜里小学校の 4 年生 59 名を対象に、開拓の歴史や運動の歩みを学ぶ授業を行いました。その翌週には体験学習として運動地を訪れた子どもたちを引率し、開拓当時の家屋や実際の森づくりの作業現場など巡りました。(写真 2-3~4)。なお、3 月には地元ウトロの知床自然愛護少年団の子どもたちを対象とした 1 泊 2 日の開拓小屋宿泊イベントを予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止としました。



写真 2-3. 開拓当時の家屋を見学する斜里小学校 4 年生 (2018 年 7 月 10 日)。



写真 2-4. ウトロ学校 8 年生の職業体験学習の様子 (2018 年 7 月 5 日)。

2-1-2. 知床来訪者へ自然保全や森林復元の取り組みを伝える活動

運動地内を歩く「しれとこ森づくりの道」の一般公開に向けて遊歩道整備を行いました。「しれとこ森づくりの道」は「シカ柵コース」と「開拓小屋コース」の 2 つの遊歩道があります。これらの遊歩道はより多くの方々に開拓の歴史や実際の森づくりの様子、運動地の環境について知っていただくことを目的として開設しています。

今年度は一般の方を対象に、知床自然センターのレクチャーコーナーを活用した森

づくりに関するレクチャーとシカ柵コースの解説をひとつにまとめた 1 時間半のプログラムを試験的に実施し、計 5 回、45 名の方にご参加いただきました。毎年繁忙期に知床自然センター館内で実施される 20 分ほどの森づくりに関する「スタッフトーク」は 8 回催行、87 名の来館者が聴講しました。

開拓小屋コースは、冬はスノーシューを履いて散策できるコースにもなっており、1 年間を通じてたくさんの皆さんに歩いていただいています。今年度は、2,174 名の方々にご利用いただきました。(写真 2-5~6)

「しれとこ 100 平方メートル運動」の展示施設であり、「しれとこ森づくりの道」の起点となる「しれとこ 100 平方メートル運動ハウス」の魅力向上を図るため、館内の順路がわかりやすくなるような展示の工夫をしました。また、積雪が多いと入り口が見えづらくなることから、多雪期でも開閉館状況が一目でわかる看板の新設を行いました。今後の利用者サービス向上の基礎データとするため、出入りにカウンターを設置し利用者数のカウントを試験的に始め、来館者の意見を自由に書いてもらうノートも館内に設置しました。



写真 2-5. 初夏の開拓小屋コースの様子 (2019 年 6 月 14 日).



写真 2-6. 冬の開拓小屋コースの様子 (2020 年 2 月 2 日).

1980 年に始まった知床自然教室は今年度で 40 年目を迎えました。この節目の年に、知床の自然と運動をさらに次世代へと引き継いでいくことを目的として二つのイベントを開催しました。7 月に開催したワークキャンプには 9 名の方が参加し、自然教室の野営地にツリーデッキを立てる作業を行いました。そして、10 月の自然教室 40 周年イベントには卒業生を中心に 50 名が知床に集い、ツリーデッキを完成させるとともに 4 日間の合宿生活を通して交流を深め、これからの知床についてそれぞれの思いを語り合いました (写真 2-7~8)。



写真 2-7. 7月のワークキャンプでのツリーデッキ設置作業 (2019年7月6日)



写真 2-8. 自然教室 40 周年イベントの様子 (2019年10月18日).

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。